

航路泊地(-13m)浚渫工事

- 津波による土砂の埋没により、航路・泊地の水深が不足し入港最大喫水が-11.8mから-10.3mに 制限されており、大型船が入港するためには喫水調整(貨物を減らして船を浮かせる)が必要となり、輸送コストの増大が問題となっていた。
- 2011年10月末に宮城県の港湾関係で第1号となる“石巻港雲雀野地区航路・泊地(-13m)浚渫工事”が完成し、大型船舶が支障なく入港することが可能となり、11月27日に大型石炭運搬船が喫水 調整なしで震災後初入港した。
- 復旧工事完成前※と比較すると海上輸送コスト縮減効果は年間1.6億円。
(※喫水調整のため、仙台港での一部荷揚げを実施)

